



3月11日で東日本大震災の発生から5年を迎えます。福島県では、東京電力福島第一原発事故も起き、地震、津波、放射線、そして風評という四つの被害に今も苦しむ人がたくさんいます。

ジュニアライターと同世代である福島の高校生は、この5年をどのように捉えているのでしょうか。太平洋沿岸の「浜通り」にある相馬高(相馬市)と、阿武隈高地を挟んで県中部の「中通り」にある郡山東高(郡山市)、安積高(同)が2月末から今月初めにかけて発行した学校新聞では、震災特集が組まれました。3校の新聞制作者が課題としたのは「風化」。仮設住宅に暮らす人取材したり、生徒へのアンケート結果から関心の低下を浮き彫りにしたりしていました。ただ相馬高では、今も仮設住宅から通学する生徒がいるため話題にしにくいという声も聞きました。

現状を知り、忘れないために、私たちに何ができるか。これから考えていきます。

第29号 フクシマ3高校の新聞

震災の悲劇 風化させない



震災特集をした福島県内3高校の新聞



校庭に設置された放射線の線量計について説明する郡山東高新聞部員(左から2人)とジュニアライター

郡山東高

「復興」や「傷痕」3ページ特集

郡山東高(郡山市)の新聞部は、4ページの新聞を年に3回発行しています。今回は、震災5年を特集するため6ページを増やしました。取材を進めるうちに、記事にしたい内容が増えたため、レイアウトも組み替えて、3ページの特集にしました。副部長の2年市川愛美さん(17)は「5年は区切り。みんなにちゃんと考え直してほしい」と狙いを話します。

安積高 無関心食い止める

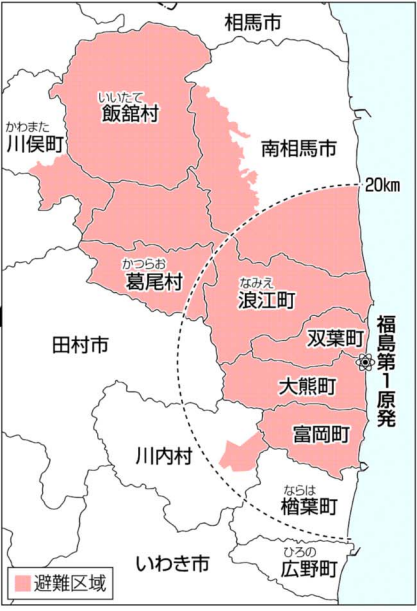
「震災について問われた時に答えられないような無関心で無知な中通りの現状を食い止めた」。安積高(郡山市)の新聞委員長2年山田耕太郎さん(17)は、そんな思いで委員会に入りました。これまで委員会では、いわき明星大(いわき市)の校舎で授業する富岡高(富岡町)や、今も宿泊が禁止されている南相馬市小高区を取材。阪神大震災の被災地・神戸もリポートしました。山田さんは「知られていない情報を届けたいから、なるべく浜通りや県外に行っている」と力強く語ります。

相馬高 同級生とは語れず

浜通りにある相馬高(相馬市)の出版局1年和田山きりさん(16)は、「震災を忘れないようにしたいから」と今回、特集した思いを説明します。ただ、今も仮設住宅に住んでいる同級生もあり、「話題にするのが申し訳ない」と、震災について友達に話すことは少ないそうです。同市内にある仮設住宅を取材した和田山さん、「実際に津波の被害を受けた避難したりしている人以外は関心がない。現地に行かないと見えないから」と狙いを話していました。



飯館村から避難して仮設住宅に暮らす佐藤さん(左)と庄司さん(右)。



住民バラバラ 古里どこへ

藤原さん(78)も5月から村に家を建て始めます。しかし、村に帰れるようになっても息子(48)は新居に引っ越すが、佐藤さんは戻らないそうです。5年かけてここで築き上げた絆を失いたくないのです。

8校今も避難余儀なく

福島県では、福島第一原発の避難区域内にある高校は、今も避難を余儀なくされています。双葉、相馬両地区の八つの高校です。8校は、「中通り」や同市内の避難区域外にある他の高校で、仮設校舎を建てるなどして授業を続けている高校もあります。しかし、震災前より生徒の数は減りました。中でも放射線量の高い双葉地区の5校は、元の校舎での授業再開が難しく、2015年度からの入学募集を停止しました。今は2、3年生しかおらず、17年春から「休校」になります。

私たちができること

正しい現実を知る
現状を伝える

私たちができることを考えてみました。
広島・福島の人が意見交換する